

テ-11

短期大学看護学科通信制課程（2年制）の学生が就業する中小規模施設におけるヒヤリ・ハット体験の実態調査

中野順子 柳生敏子
高松邦彦 関 雅幸 長尾厚子

【研究の背景】医療の高度化に伴い、現場では医療安全対策が重点課題となり、1999年、横浜で起きた医療事故を機に、全国規模での医療事故の実態調査や防止対策が図られた。その中でもヒヤリ・ハット事例の分析は重大事故を未然に防ぐことに繋がり有用性が報告されている。しかし、中小規模施設での横断的な調査報告は殆どない。本研究では、通信制課程の学生の7割が就業する中小規模施設を対象に、医療安全対策の仕組みやヒヤリ・ハット体験の実態を調査することにした。【研究の目的】ヒヤリ・ハット体験を調査し、すでに報告されている全国の事例と比較検討し、中小規模施設における事故報告の仕組み等の実態を明らかにする。なお本研究は研究倫理委員会の承認を得た。【調査期間・対象・方法】期間：2013 2月～3月、対象：本学通信制課程1年次生188名、方法：無記名自記式質問紙調査（口頭と紙面で説明し、返信封筒による返送で承諾を得た）、【分析方法】背景、ヒヤリ・ハット体験は表計算ソフトExcel Ver2010にて単純集計し、事故報告の意識は相関係数による分析を行う。【結果と考察】調査配布数188件、回収数98件、回収率52%、事故報告の仕組みは88.5%が有ると答えた。ヒヤリ・ハット体験の内容は全国調査と類似した結果と、本調査での特徴的な傾向も見られた。自由記載からは施設による特徴が明らかとなった。これらの結果を医療安全教育に反映させ、現場の医療安全対策の一助とした。